

# 2017(平成29)年度事業報告書

(2017(平成29)年4月1日～2018(平成30)年3月31日)

## はじめに

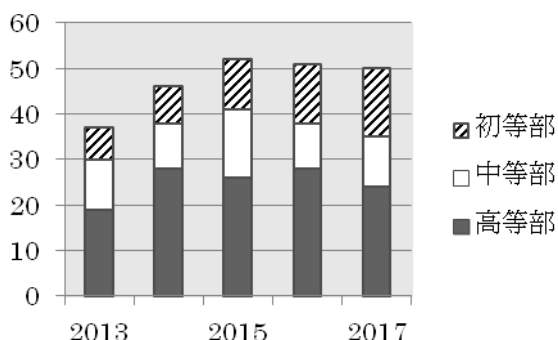
定款に記載された目的および事業の内容を達成するため、事業計画に沿って下記の事業を概ね計画通りに実施した。

2017年度は理事長の交代や理事や理事体制の大幅な変更があり、新たな船出となったが、新体制で円滑にそして安定的に事業実施することができた。

## 1 事業の成果

### 1) フリースクール事業

フリースクール「りんごの木」の在籍者数は、年間を通して50名程度で推移し例年と変わらない下記のような規模となった。



しかし日々通ってくるメンバーの内訳で見ると、高等部のメンバーが減少し、初等部の子ども(特に10歳以下の子ども)が増加した。

そのことで、全体的な雰囲気も少し変わり、賑やかさの質も変化した。その結果、開所時間前に玄関に行列ができるなど活発化する部分もあったが、高等部の子どもたちが中心となっている音楽活動は参加者が減り、計画した発表会が実施できないこともあった。

このようにりんごの木の様相は変わってきた部分はあるものの、子どもたちの居場所としての役割、一人ひとりを大切にするという、これまで大切にしてきたものは変わらず意識してスタッフは携わってきた。

## 学習支援

例年のように通信制高校在籍者へのレポート作成支援や在籍する学校の課題の支援など、希望する子どもたちへの支援、その他進学に関する情報提供や相談などを実施した。

## イベントについて

誕生日会、お泊り会(3回)、クリスマス会、お別れ会など例年通りの活動を実施したほか、7月には川遊びを中心とした秩父合宿(17名参加)、2月には会津たかつえスキー合宿(26名参加)を実施し、事故などもなく充実した活動ができた。

## 他団体との交流活動

フリースクールフェスティバル(2回)には、実行委員会への出席、カフェや音楽発表などで参加した。また2社の民間企業とのスポーツを通して交流した。

## 研修

アジア・太平洋地域のフリースクール大会、登校拒否・不登校を考える全国大会、日本フリースクール大会に参加し、活動のヒントをえた。こうした外部の研修以外にもスタッフ間で、日々、子どもたちの状況や運営のあり方など密に話し合い、具体的なケースからの実践のための学びを大切にした1年であった。

## 保護者との活動

保護者会や保護者面談を開催した。また保護者有志によるお茶会が毎月自主的に開催され、保護者同士の交流が深まった

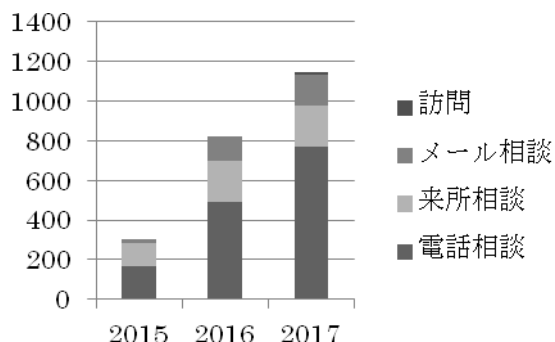
## 教育行政との関係

教育機会確保法の施行により、行政や学校との関係が深まった。具体的には学校・フリースクール連絡協議会(越谷市教育委員会主催)で情報交換等を行った他、全国適応指導教室連絡協議会会長の訪問、在籍者の学校の校長や教員、スクールソーシャルワーカー等の学校関係者の訪問が多く、家庭と学校の関係の円滑化にも成果があった。

## 2) 子どもとの関係や対人関係に悩む人の相談に応じ、互助活動を支援する事業

### 「埼玉県ひきこもり相談サポートセンター」

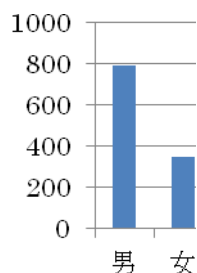
相談活動として、委託事業「埼玉県ひきこもり相談サポートセンター」でひきこもりなどの相談を受けた。開所して3年目に入り相談件数も下記のように昨年度より4割ほど伸び1144件だった。



センターでの相談等はすぐに目に見える変化が現れるような活動ではないが、息の長い、地道な活動を通して当事者やその家族の支えになることを大切に活動してきた。

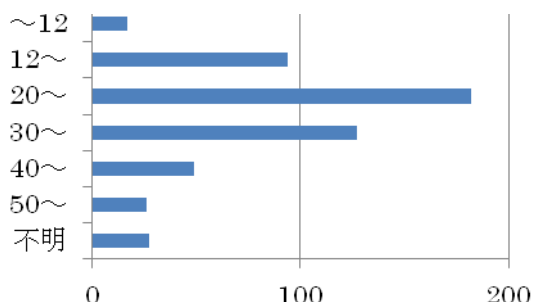
なお、2017年度相談の実態は以下のようである。

1 当事者の性別

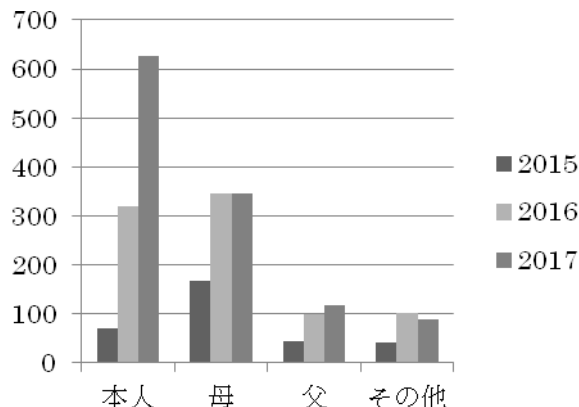


当事者は男性の方が女性の2倍以上あった。また年齢に関しては、20代、30代が多かったが、40代以上の方の相談もあり、幅広い世代の相談があった。

2 当事者の年齢



3 相談された方



2017年度の特徴として、当事者本人からの相談が多かった。それまでは母親からの相談が最多で、本人以外の相談は2016年度と差は少なかったが、2017年度は当事者となることが多く、3年目を迎え、当事者との絆が深まった結果と言える。

一方で当事者との関わりが増えることは相談員の工夫が要されるとともに、増えていく件数や難しい相談に対して、相談員が丁寧にかつ適切に対応していくために相談のあり方などを考える年度ともなり、次年度の課題ともなった。

また県内において、越谷市関係者会議、朝霞保健所支援連絡会に出席するなど、他団体や行政機関との結びつきの深まりも感じられ、より連携しやすい体制になりつつある。

### 親の会

月に1回、継続して来られる方も多く、参加者数が安定的に推移し、落ち着いた雰囲気の中で毎月行うことができた。また時間の変更や、学齢期とそれ以上の方の会の2つに分けて運営したことで、運営しやすくなった上に参加者の満足度にもつながっていたようで、充実した活動ができた。

### コル〜発達障害とともに生きる会

発達障害周辺の方（家族や当事者）を対象に、交流や情報交換の場として、2016年度と変わらない規模で年4回開催できた。

### 3) 生涯学習にかかわる事業

#### ほっとりんご (20歳以上の人の居場所)

例年通り、月2回、参加者の希望に沿って多様な活動を実施した。



ほっとりんごでアート中！

ただこれまで女性が参加しづらいケースもあったため、女性が安心して気軽に参加できるように、年4回、「女子会」を試験的に実施し、通常の会よりも多くの女性が参加し、好評であった。またひきこもりをテーマに、芹沢俊介さんの講演会を開催し、ひきこもることへの知見を深めた。

#### 「わくわく体験プロジェクト」

越谷らるごが中心的な役割を担い、保護者向けのゲストによる不登校の体験談を聞く会など3回の会を実施し、好評であった。(越谷市と地域とNPOの協働事業)

### 4) 人権擁護の推進と福祉の増進にかかわる事業(自立援助ホーム)

自立援助ホーム「ゆらい」では定員6名に対して、2名の新規入所で定員一杯の6名が入居し、大きな事故やトラブルもなく運営することができた。2017年度は仕事を継続する入居者が増え、自信を深めるとともに退居後の生活の安心材料が増えた。しかし、20歳を過ぎたらホームを退所せざるをえないので、新生活のために貯金をする必要があるのだが、計画的に貯金できる入居者が少なく、支援のあり方に課題が残った。

一方で「全国自立援助ホーム協議会」「埼玉県自立援助ホーム連絡協議会」を中心とした研修や会議へ参加し、ホーム運営や入退居者支援に関する情報共有を行い、スタッフの資質向上や問題を抱え込まない体制づくりを心掛けた。

計画していた協力・提携企業などの社会資源の

開拓は行えなかったが、越谷市内で活動されている方とつながり、雇用や住まいの確保について協力を依頼した。

退居者支援として、生活・健康・仕事等の相談、訪問、同行、寄付品の提供などを行ったが、余裕を持った生活を継続出来ている退居者は少なく、これまで以上に退居者支援にも力を注いでいく必要性を感じた。

なお、2017年は開所してから5周年を迎え、「ゆらい5周年記念誌」を作成し、配布した。



### (5) 活動のなかで得られた子どもの教育と生涯学習についての意見を広めるための事業(広報事業)

2017年6月に越谷らるごを長きにわたって牽引してきた増田良枝さんの講演を中心に「越谷らるご25年の軌跡」という会を開催した。これまでの活動をふりかえり、これからの活動の足がかりとした。また当日はたくさんのなつかしい顔に再会でき、心温まる会となった。

「越谷らるご通信」は予定通り、りんごの木の保護者等の協力で月1回発行し、活動の告知や成果の報告などを行った他、読み物としての充実も図った。また贈呈分が増え続けていくことに対して送付先の見直しや通信のEメールでの配信等を実施することで発行、発送の負担等を抑えた。

また活動報告や告知についてホームページやフェイスブック、メールマガジンなどインターネットを通しての発信も継続した。また次年度の発行に向けてパンフレットの更新作業を行った。

その他、依頼に応じてスタッフを越谷市科学議技術体験センター、越谷市青少年問題協議会、草加市社会福祉協議会に派遣した。また三芳町社会福祉協議会、埼玉県青少年課、春日部保健所活動から訪問を受けた。

## 2 事業の実施にかかわる事項

### 特定非営利活動にかかわる事業

事業名	事業内容	実施場所	支出額
(1) フリースクール事業	年間を通して、学校以外の子どもの居場所・出会い・交流・学習の場の提供、活動支援、相談活動、見学・体験入会などの実施、情報提供などを行った。 平成 29 年度は 49 名でスタートし、9 名が新入会し、12 名が年度中に退会した。(平成 30 年 3 月末の在籍：50 名。) ネットワーク SAITAMA21 からパソコン 1 台寄贈され、活動に役立てた。	本法人の事業所他	13,047 (千円) 以下同様
(2) 子どもとの関係や対人関係に悩む人の相談に応じ、互助活動を支援する事業	親の会 毎月 1 回、年 11 回実施した。のべ参加者数：211 名。	本法人の事業所	9,742
	埼玉県ひきこもり相談サポートセンター(埼玉県委託事業) 月・水～土 10:00～18:00 にひきこもり等に関する相談を電話・来所・メールにて受けた。 のべ相談者数：1144 名。	本法人の事業所他	
	コル～発達障害とともに生きる会 計 4 回、互助的な会を開催した。のべ参加者数：50 名。	本法人の事業所	
(3) 生涯学習にかかわる事業	ほっとりんご(埼玉県ひきこもり集いの場運営事業費補助金事業) 20 歳以上の人の居場所として毎月 2 回、様々な活動を実施した。のべ参加者数：198 名	本法人の事業所他	713
	行政と地域との協働事業「わくわく体験プロジェクト」 不登校の体験談を聞く会など、保護者向けの会を 3 回実施し、年度末に報告書を作成した。のべ参加者数：46 名。	中央市民会館	
	講演会・学習会 芹沢俊介氏を迎えて講演会を開催した。参加者数：34 名	本法人の事業所	
(4) 人権擁護の推進と福祉の増進に関わる事業	自立援助ホームの活動 家庭での生活に困難を抱える若者の自立支援を行った。今年度は 2 名が新規入居者となった。退居者支援として、退居者の来訪、相談、訪問など(140 件)を行った。 5 周年記念紙を作成し、関係機関等に配布した。(発行部数：400 部)	本法人の事業所	25,585
(5) 活動の中で得られた子どもの教育と生涯学習についての意見を広めるための事業	『越谷らるご通信』の発行 毎月、会員及び関心をもつ方を対象に、11 回、計 4,000 部ほどを発行し、活動で得られた知見を社会に発信した。	本法人の事業所	262
	インターネットによる発信 不特定多数の方を対象に、毎月 1 回メールマガジンの発行とホームページの更新、フェイスブックによる発信を随時行った。	本法人の事業所	
	その他 講演&シンポジウム「越谷らるご 25 年の軌跡」を開催した。参加者数：70 名 埼玉県主催「不登校セミナー」にブース出展した。 講演等の活動 8 件行った。 埼玉県社会福祉協議会の広報誌「S・A・I」に活動が紹介された。	埼玉会館 他依頼先	

## 3 運営管理に関する事項

- ・2018 年 3 月末現在、正会員 97 名(98 名)、賛助会員 41 名(45 名)であった。(括弧内は 2017 年 3 月)
- ・情報管理が徹底されるよう、個人情報管理のための規則等を作成した。
- ・広く支援を集めるための取り組みとして、「フリースクールりんごの木子どもサポート基金」「若者自立支援基金」、一般寄付を集める取り組みを継続した。具体的にはオンラインでの寄付サイトでの寄付キャンペーンの活用古書等を通じた寄付活動など、様々な方法を用いた。
- ・理事の定数に関する定款の条文を変更した。
- ・トイレの改修を行い、そのための資金としてトイレ募金を年度末から募集開始した。
- ・当該年度の譲渡資産、資産の貸付、役務の提供に関しては該当なし。
- ・給与を得た職員の総数 13 名。左記職員に対する給与総額 31,325,333 円